

朗読・山本陽子×三味線・本條秀太郎

山本周五郎原作の邦楽ドラマ「松廼家おけい」

山本周五郎の小説「虚空遍歴」を原作に、俳優たちの朗読と三味線音楽が共作する邦楽ドラマ「^{まつのゝ}松廼家おけい」が東京・紀尾井小ホールで上演される。朗読は山本陽子、三味線は本條秀太郎。芸に憑かれた名人を慕う女性の心情が描かれる。

端唄名人の中藤沖也は、さらに上を目指し、自分ならではの浄瑠璃を作ろうともがく。そんな彼にひかれる東京・柳橋の元芸者おけい。「貫く恋心は男性にというより、その芸に向けられていたと思う」と山本。

2人は肌を合わせる関係ではない。ひたすら沖也の声に焦がれ、だが淡々として彼の旅の足取りを追う。「おけい



山本陽子（左）と本條秀太郎

には優しさと芯の強さが共存しています。朗読と三味線で沖也のあこがれたものが、ちゃんと見えてこないといけない」

秀太郎は「端唄はからっとしつつ表現は色っぽい」と話す。「朗読の声も楽器としてとらえ、音で心情を表現したい」という。

3月6、7日。大間知靖子演出、堀越真脚本。☎03・3237・0061 (米原範彦)